

「第7回スポーツ環境会議」議事録

平成28年8月9日(火) 午前10:00～11:45

新宿区役所5階大会議室

1 出席者

1	今泉 清隆 (区体育協会)	9	山本 秀樹 (生涯学習スポーツ課長)
2	金子 和子 (区スポーツ推進委員協議会)	10	下杉 正樹 (新宿未来創造財団等担当課長)
3	小菅 知三 (区レクリエーション協会)	11	小林 正明 (障害者福祉課)
4	山田 和男 (区町会連合会)	12	松田 浩一 (地域包括ケア推進課長)
5	大塚 フジエ (区青少年育成委員会)	13	佐藤 まゆ子 (子ども家庭課)
6	大嶋 英二 (区中学校PTA協議会)	14	中川 誠一 (健康政策課長)
7	小宮 高之 (スポーツ関連事業者)	15	依田 治朗 (みどり公園課長)
8	関口 美緒 (公募委員)	16	木城 正雄 (教育調整課長)

欠席者 6名

間野 義之 (学識経験者)

徳堂 泰作 (区障害者団体連絡協議会)

辻 彌太郎 (区高齢者クラブ連合会代表)

山本 芳裕 (区小学校PTA連合会)

藤原 千里 (公募委員)

小柳 俊彦 (新宿未来創造財団事務局長)

配付資料

資料1 スポーツ環境会議設置要綱

資料2 スポーツ環境会議委員名簿

資料3 関口委員からの情報提供

「東京オリンピックへの外国人参加を考える—インタビューを通して—」

資料4 都立戸山公園箱根山地区多目的広場 整備計画に関する資料 (概要)

資料5 新宿区スポーツ環境整備方針 (抜粋)

資料6 戸山多目的運動広場に関する利用者アンケート 集計結果

資料7 戸山多目的運動広場に関する区各課要望 集計結果

当日配布1

当日配布2

当日配布3

2 事務局

生涯学習スポーツ課

3 会議内容

(1) 開会

(2) 生涯学習スポーツ課長あいさつ

区の組織改正があり、4月に地域文化部生涯学習コミュニティ課から地域振興部生涯学習スポーツ課に課名が変更となった。新宿区としては初めてスポーツの名称がついた部署であり、スポーツ振興に力を入れたいと考えている。また、スポーツ環境整備方針を今まで以上に推進するための担当部署という位置づけもあり、区民のスポーツの機会の拡大及び健康寿命の延伸やスポーツコミュニティの醸成等も視野に入れながら、区民のスポーツ実施率を向上させる取り組みを総合的に行っていききたい。

なお、今回の組織改正を受けて、スポーツ環境会議設置要綱を改正した。

スポーツ環境の現状確認を行い、社会的なニーズの多様化に対応できる体制づくりを整備していくためのスポーツ環境会議も今回で7回目となる。今回も、前回の会議以降の皆様の活動内容や今後予定されている取り組みなどをご紹介していただくとともに、新宿区初の総合運動場となる戸山公園の多目的運動広場の整備をテーマに意見をお伺いしたい。例年、会議はこの時期ではなかったが、東京都が本格的に総合運動場の整備を検討し始めたため、新宿区としても皆様方のご意見を頂戴しながら整備に向けた要望書を作成したいと考えており、この時期に開催させていただいた。

また、28年度からの新宿区第三次実行計画では、「スポーツ環境の整備」として、スポーツ・文化活動の場を整備して子どもから高齢者まで目的やライフステージに応じた多様な活動に親しめる環境を充実していけるように取り組んでいる。その点についても、皆様方からスポーツ人口を増やすための貴重なご意見をお伺いしたいと考えている。

(3) 座長の選出

金子委員が座長に選出された。

(4) 情報交換・意見交換（要旨）

ア 各団体・委員からの報告

・体育協会は役員を含めて高齢化が進んでいる。サッカー、野球、バレーボール等には若い世代が参加しているが、他のスポーツには若い世代がなかなか入ってこない。スポーツ少年団からも学業の意識が強く、なかなか集まりが良くないという話を聞いている。体育協会としては、ダンススポーツなど色々なスポーツを取り入れて、若い人に興味を持ってもらいたいと考えている。また、区民全体に関わってもらってスポーツをやりたいと考えているので、皆様のお知恵をお借りできればと思う。

・レクリエーション協会としては、今年初めて「新宿区レクリエーションフォーラム2016」と題してフォーラムを開催したいと考えている。11月27日の予定で準備を進めているので、間もなくご案内できると思うので期待していただきたい。

・新宿区町会連合会は、スポーツを地域から応援する立場と考えている。毎年行っているコミュニティスポーツ大会は地域の交流の場になっており、そういったところで地域の絆を強くしていきたい。また、地域によっては町会対抗の運動会を盛大にやっている。他の地域でも、交流を兼ねての

運動会を実施できるというが、今は行事に出席の方が高齢化しており、なかなか若い方に出てきてもらえないという課題がある。若い方が町会活動に参加していただけるように、スポーツを通じた町会活動も注目したいと思っているので、いいアイデアがあれば、ぜひ参考にしたいと思う。

・青少年育成委員会では、戸塚地区、四谷地区と落合地区で小学生のサッカー大会を開催している。地区によっては、中学生が審判に入り開催している。また、育成会主催でキャンプやスノーツアーをやっている地区もあり、そこでは先輩が後輩の面倒を見るのが当たり前として行われている。他にも若松、榎、箆笥の地区でおまわりさんと走ろうというイベントをしたり、箆笥地区では中学生が中心になって運動会をしている。私は新宿区の少年サッカー連盟にも関わっており、戸山多目的運動広場の問題にとっても興味があるので、いろいろ話し合っていたらと思う。

・中学生のスポーツ環境の場合、勉学もあるが、スマートフォンが生活のかなりの部分を占めており、小学生も同様だが、特に中学生には大きな影響を与えている。中学校PTA協議会のスポーツに関連する取り組みとしては、例えば運動会の時に熱中症対策として給水所を設けて、観客や子どもたちに水分補給を奨励している。余談だが、夜の9時頃に新宿スポーツセンターの前を通ったら人だかりがあり、皆スマートフォンで流行のゲームをしていた。外に出てやるゲームではあるが、自分より若い世代だと熱中している人もいるので、この先どのように収束するか見届けたい。

・4月から新宿スポーツセンターの指定管理者になり、長い耐震工事の休館を経てオープンしたところで、ようやく立ち上げの忙しさが落ち着いてきた。指定管理者の役目は、誰でもスポーツができる環境を整えてスポーツ振興を図ることだと考えている。生涯学習として子どもから高齢者まで参加できる教室プログラムを展開して、誰でも使いやすいスポーツセンターにしていきたい。

・資料3は勤務先の大学の学生へのインタビューであり、ケーススタディとして参考になればと思う。要約すると、留学生として日本に来ている外国人はいろんなものに参加して日本人と触れ合いたいが、言葉ができないので会話の壁に対する恐怖心を持っており、結局自分のコミュニティで4年間を過ごすというパターンが多い。出会いのためにスポーツでもなんでもやってみたいという思いがあるが、言語と出会いの場の問題があるため、SNS等のインターネットで情報が拡散されることを多くの学生が望んでいる。そういう場があると色々な方や外国人が参加でき、新宿区としての務めと経済的な効果があるかと思う。スポーツは善意だけではなくお金が関係してこないとなかなか発展しないので、経済面からの支援も考えていただきたいと思う。

・新宿区のスポーツ推進委員は現在37名いる。活動内容は区民にスポーツの楽しさを知っていただくこと、スポーツを健康づくりやコミュニティづくりに役立てていただくこと、区のスポーツ振興に沿って地域活動団体と関わりを持って協力することで、そのために色々な活動をしており、例えば区民がスポーツに親しむ場として中学校校区ごとにスポーツ交流会を立ち上げ、小中学校や地域センターで定期的にイベントを開催している。ほかにも区のイベントに積極的に協力しており、新宿スポレクで体力測定を行ったり、コミュニティスポーツ大会で新しいスポーツの紹介をしている。また、区に助言ができるように全国、関東、東京都と様々な研修会に参加しスポーツ振興につ

いて勉強している。新宿いきいき体操のサポーター研修も積極的に受けており、地域で活用していきたいと思っている。それから、東京オリンピック・パラリンピックの機運醸成として、パラリンピックの正式種目であるボッチャとゴールボールの普及活動をしている。ボッチャはいろいろな場面で紹介しているが、参加者の反応がよくまたやりたいという話をよく聞く。区には道具が8セットあるので、体験の希望があれば、ぜひ生涯学習スポーツ課へ連絡してほしい。

イ 各課での取り組みについて

・生涯学習スポーツ課

6月によしもと興業と共催で水泳教室を実施した。冬には、新宿シティハーフマラソンに向けた走り方の教室を開催したいと考えている。広報等で周知するので、ぜひ参加や見学をお願いしたい。東京オリンピック・パラリンピック機運醸成事業としては、ボッチャとゴールボール以外にも普及の対象とする種目を検討中だが、障害のある方もない方も一緒にできるニュースポーツがいろいろあるので取り組みたい。また、健康寿命の延伸も大事な視点だと考えている。

・新宿未来創造財団

新宿未来創造財団は区のスポーツ事業に大きく関わっており、区民総合体育大会やスポレク2016、コミュニティスポーツ大会、地域スポーツ文化事業などを実施している。また、障害のあるなしに関らずスポーツを楽しみながら交流を図るための事業をしており、現在はフットサルと卓球を月に1回、スポーツ推進委員会にご指導いただきながら定着を図っている。また、もうすぐ来年の1月に行われる新宿シティハーフマラソン・区民健康マラソンの区民優先受付を開始する。詳しくはホームページ等で周知するが、ぜひ区民の方にお声を掛けていただきたい。

今週末リオデジャネイロパラリンピック大会に出場するゴールボール女子日本代表が、新宿コスミックスポーツセンターで練習の見学会及び男子代表との壮行試合を予定している。新宿の子どもたちにエスコートキッズの募集をしたほか、今現在100名以上の方から見学の申し込みをいただいている。壮行会やセレモニーも予定しており、新宿からゴールボール女子日本代表を応援していきたいと考えている。

・障害者福祉課

障害者福祉施策の一環として、障害者の社会参加の視点からスポーツを応援していきたいと考えている。具体的には、障害者のスポーツ団体が練習や大会に出たりする場合に、障害者の基金から助成金を出している。また、実際にスポーツに参加するために会場へ行くまでの移動の支援や、障害のない方とのコミュニケーションの支援として、聴覚障害者には筆談や手話の通訳者を派遣したり、視覚障害者の方であれば代読や代筆の支援を障害者施策の中で提供している。今後さらに社会参加が充実することで、支援に関するニーズも増えていくと考えている。

・地域包括ケア推進課

高齢者人口が増えていくなかで、元気なままでできるだけ長くという視点から健康寿命の延伸に取り組んでいる。11月9日、10日に高齢者の方を募ってハイキングを予定しているほか、誰でも気軽にできる新宿いきいき体操を多くの方に体験していただく取り組みをしている。また、高齢

者のための一般介護予防教室でマシントレーニングやプール等の教室を提供しているが、次年度以降はこういった教室よりもさらにハードルを低くして、より多くの方にご参加していただけるような取り組みを進めたいと考えている。

・子ども家庭課

次代を担う子どもたちが自分らしく成長していけるように、子どもの健やかな育ちや子育て家庭の支援を行っている。子どもの健やかな成長には遊びが欠かせないものであり、様々な遊びがスポーツの基盤を作っていくと考えている。現在の都市では子どもが自発的にのびのびと遊べる機会には制約があるため、区では遊びの場や機会の充実を図っており、児童館や子ども家庭支援センター、子ども総合センターで遊びの場を提供している。また、小学校では子どもが安全に交流を図れる場として放課後子どもひろばを実施している。

また、地域には自分の責任で自由に遊ぶがモットーの禁止事項を少なくしたプレイパークがあり、地域の方に運営していただいている。プレイパークは冒険遊び場ともいい、ロープ遊び、木登り、ターザンロープ等様々な遊びを行っている。このように、子どもが地域で遊ぶことが地域の絆を育てるきっかけにもなると考えている。今後は子どもの体験の世界を広めて心身ともにバランスの取れた成長を促すものとして、遊びの場や機会の充実をより一層図っていきたい。

・健康政策課

健康づくりや健康寿命の延伸等の視点に基づき、競技スポーツというよりは広く運動といったニュアンスで事業を展開している。たとえば、新宿区ウォーキング協会と協力していきいきウォーク新宿を推進しており、運動に気軽に親しむためにまず歩いていただこうと考えている。また、元気館では、スタジオプログラムや子ども向けのプログラムを展開しており、年齢を問わず運動を楽しみながら健康増進を図るきっかけづくりをしている。

課題は、これらの事業は健康への意識の高い方の利用が多いため、健康に無関心な方のどのように参加していただくかであり、知らず知らずに身体にいいことをしているという仕掛けづくりを考えている。そのために、昨年度から区全体で検討会議を開き、歩きたくなる道づくりや、健康に無関心な方でも食堂に行くと無意識に野菜を食べているといったようなことを検討している。この取り組みには色々な団体の力が必要なため、ぜひご協力をお願いしたい。

・みどり公園課

公園に子どもの遊ぶ遊具の他に、高齢者や大人が使える健康づくりに役立つ遊具の設置を進めており、現在21の公園に設置している。また、今年度西落合の葛ヶ谷公園で、区民からの要望を受けてぶら下がり機能のあるものと前屈のための健康遊具を設置する予定である。これらの情報はホームページで紹介しており、今後健康部と協力して表示や周知の仕方について検討していきたいと考えている。

また、スポーツに関する要望も多く受けており、バスケットゴールを設置した公園が8か所、金網で囲ったキャッチボール等のできるスポーツコーナーのある公園が10か所ある。今後も要望を聞きながら、健康づくりやスポーツつなげる公園づくりを進めていきたい。

・教育調整課

学校教育の中で子どもたちの健全な心身の育成に取り組んでいる。子どもたちの体力と運動に関して年に1回全国調査があり、小学生では全国平均を上回る結果が出ている。しかし、中学生になると、男女ともに全国平均を下回り、特に東京都は全国平均の中でも低いが、新宿区はその東京都の平均よりも低い状況である。

現在、スポーツから離れた子どものスポーツへの関心を高めるために、スポーツギネス新宿という取り組みを小中学校で進めている。中学校では、世界的にも有名でテレビ等でもよく取り上げられるダブルダッチを用いて、まず関心を持ってもらい、身体を動かすことへのきっかけづくりをしている。小学校では、バレーボールの円陣パスやキャッチボールの回数を競い合いながら、楽しんでできる運動をしている。

また、オリンピック・パラリンピックに向けて障害者理解教育に取り組んでおり、ブラインドサッカーを始めとした障害者スポーツの体験事業を行っている。28年度はブラインドサッカーの体験教室を小学校8校、中学校2校で実施した。障害者の方やパラリンピアンと触れ合うことで、子どもたちの様々なきっかけづくりになればと思う。

ウ 各報告を受けての自由意見

・現在、地域の色々なところで盆踊りをやっており、高齢者の方が多く参加している。盆踊りも一つの運動かなと思う。

・盆踊りは今が一番盛んなシーズンで、住んでいる地域でも先週末に6町会連合の盆踊りがあった。毎年、踊り手が増えるように練習の機会を作っており、子どもや外国の方も参加してくれる。そうすると、実際に盆踊りをするときその人たちが踊りの輪に入り、周りの人達にも輪が広まるということがあって、練習の機会の重要性を実感した。盆踊りは汗をたくさんかく立派なスポーツで、コミュニケーションの手段にもなるので、身近なスポーツとしてどんどん参加してほしいと思う。

・カントリーアンドラインダンスというのがあり、社交ダンス等はペアでやるのが原則だが、カントリーアンドラインダンスは一人から出来て、小学生でも高齢者でもできるスポーツだ。日本ダンススポーツ連盟の傘下に入ってきて、高田馬場に体験できる場所がある。新宿区体育協会でも新宿未来創造財団と協力して始めてみようと思っている。簡単なステップで、外でもどこでもできるので普及を図っていきたい。

・地域でイベントをやっているにもかかわらず、外国人に至っては近くでやっていることを知る機会が少ない。日本語でも英語でもいいので、ビデオ発信や冊子で情報の紹介があると外国人でも参加しやすいし、外国人がいることで注目を浴びて、さらにスポーツの周知につながることも考えられる。また、教えている大学で、日本語と英語両方を使ってコマーシャルを作るクラスがある。とても大変な作業だが、出演者は全員外国人留学生で、映画みたいにとっても上手に撮影する。撮影する場所を探しているので、地域での取り組みを授業で取り上げさせていただけるとありがたい。行政がすべてやるのは民主主義ではなくて、湧き上がってくる力を活用することも大切だ。例えば、新宿区なら早稲田大学の学生や、私の教えている学生も活用していただきたいと思う。交流を深めるために様々な集いに呼んでいただければと、将来に向かって思っている。

・学生に広げるという視点では、青少年育成委員会は区から補助金をいただいて10地区ごとに事業をやっているが、各地区で活動する委員は各地区から推薦されているので、なかなか学生と一緒することは少ないのが現状だ。落合第一地区町会連合会は掲示板で事業の周知をして実行委員を募集しており、オープンに運営している。掲示板を見て興味を持っていただければ歓迎したい。

・総合運動場の整備計画について、この会議の主な狙いは、区民のスポーツ人口の底上げが重要な課題であり、戸山公園の活用はその大きな要である。しかし、東京都の壁は大変高くて厚いという印象があるため、区全体で団結して、東京都と折衝しなければいけない課題だと思っている。せっかくの施設だから、行政にお願いしたいのは、特定の種目だけじゃなくて、区民が広く利用できるようにしてほしいということだ。広場を上手く活用することで、成人や中高年、スポーツ人口を増やすのに大きな成果を上げられると思っている。ぜひこの機会に、東京都の状況と将来的な展望を伺いたいと思う。

・この会議の出席者はスポーツに関する意見交換ができるが、その他の方々はなかなか知ることができないのが現状だ。スポーツ推進委員は色々な事業のポスターを一生懸命貼ったり、色々な場に出席して事業を周知しているが、初めて来た方からは存在を知らなかったと言われる。区役所の中でも、他の課がやっている事業を把握する横のつながり的な情報交換をしてほしいと思う。スポーツ環境会議の場があるので、体操の話もウォーキングの話もスポーツの話もまとめる方向で考えてみるとこの会議の意義が上がると思う。

それから、身体にいいことだけをやっても続かないので、知らないうちに運動をしているという仕組みはとて面白いと思う。しかし、それも継続していくにはどうするかという問題があり、ボランティアリーダーみたいな裏方が必要になる。ボランティアは区全体で育成していかないと、事業を立ち上げて協力してくれる団体がいないという課題が出てくる。新しいボランティアが次々出てくることでスポーツがより活性化していくので、区や新宿未来創造財団でがんばってほしい。将来、シティハーフマラソンやウォーキングや体操など色々な場で活躍してくれるように、1人1人の特性に合ったボランティアを育成していくということを考えていただきたいと思う。

(5) 総合運動場の整備について

・生涯学習スポーツ課

これまでの経緯についてご説明する。昭和63年に東京都の公園整理事業の計画の第一弾として、都立戸山公園内に多目的広場が設置された。平成9年に今後の整備について、東京都の公園緑地部から、多目的運動広場に管理スペースとして管理室、更衣室、便所、車庫、駐車場を作り、競技スペースとして200mトラックと100mストレートコース、小野球場と小サッカー場を作るという方針が示された。平成18年には、東京都に整備方針を改めて確認し、用地取得や事業計画等に変更がないという中間報告を受けた。この時期は国の人骨調査があり、動きが止まっていた時期となる。平成25年に新宿区で「スポーツ環境整備方針」を策定し、それに伴い東京都に総合運動場の整備の方向性の修正を打診した。また、平成27年に東京都において国から隣地の用地購入をする予算を計上し、12月に購入したと聞いている。平成28年には、東京都で計画の再検討を含めて計画づくりをするということだ。計画づくりの状況については近々東京都へ行き確認する予定だ。

スポーツ環境整備方針で策定した新宿区の要望は、現在の多目的広場の機能を保ち新宿区民が自由に使える場としつつ、より快適に多種目・多目的に利用できる総合的な運動場として整備を計画してほしいというものだ。私も東京都に何度か足を運び状況を確認しており、新宿区としては立派な200mトラック等がある運動場というよりも、多目的に利用できる総合運動場として作っていただきたいという要望を伝えている。

また、戸山多目的運動広場の利用団体にアンケートを実施した。主な利用団体は少年サッカー、少年野球、グラウンドゴルフ、ゲートボール等である。広場の広さは、ちょうど良いや少し狭いという回答が多かった。広場の周辺環境については街灯を増やすことや、周辺の道路を広げてほしいという意見があった。運動設備の要望としては土と芝のグラウンドの両方の意見が出ており、ナイター設備という意見も出ていた。利用可能な競技種目については、利用者団体へのアンケートということもあり、今のままでよいという意見が多かった。付帯設備では、洋式トイレ、多目的トイレ、駐車場の意見があった。他に自由意見として、近隣の区ではジュニアサッカー専用の人工芝のグラウンドがあるので新宿区でも整備をしてほしいという意見や、観客席やベンチの屋根の整備を求める意見を頂戴した。

区の各課要望では、消防団の訓練場所として使いたいというものや、災害時のトイレ・かまどの整備、フェンスの設置による安全面の確保、遊歩道と樹木のある広い芝生広場、イベントのできる屋根のある広場、イスやテーブルの出せるテラスやテントなどの意見が出ている。他に、広場の南側の道路が狭くて蛇行しているため、幅員を広くするとともに線形を整え、施設へのアクセスルートを確認する道路整備を求める意見も聞いている。

今回、各関係団体から頂戴した意見をご紹介させていただいた。これらに対して、委員の皆様からもぜひご意見を頂戴できればと考えている。

- ・裏側の土地の人骨調査は終了しているのか。
→（生涯学習スポーツ課）人骨の調査は平成23年7月、もう少し前かもしれないが調査は終了しており、出なかったと聞いている。それを受けて、東京都が国から土地を購入したということであり、人骨の問題はなかったという状況だと認識している。
- ・少年サッカー連盟では戸山多目的広場について様々な意見を持っており、サッカーはもちろんだが、他のスポーツの活用についても考えているので、ぜひ確認をお願いしたい。
- ・普段運動していない方が運動したい思ったときに、気軽に運動できる場所がないという話をよく聞く。子どもとキャッチボールしてみたいけど、キャッチボールできる公園はあっても、すぐには思い浮かばない。このときに多目的に使える広場があると、非常に使いやすいと思う。現在使用している団体との兼ね合いもあるが、誰でも行ける運動公園になるといいと思う。
- ・トラックを作るという東京都の計画に対して、多目的な広場としたいという新宿区の要望は私たちもずっと求めてきたことだ。あくまでも多目的な場として、色々な方に使っていただけるのが大切だ。また、少年サッカーでグラウンドを確保できて大会を開けるのは戸山多目的広場だけというのが現状だ。新宿未来創造財団や少年野球の団体、グラウンドゴルフやゲートボールの団体と話し

合いや協力をして場所を取らせていただいている。一般の人を入れる時間をしっかり確保し、利用者で話し合って多目的な場所として活用していきたいと考えている。

・アンケートは利用者から取ったものなので、町会等の地域の団体からも意見を聴取してもらいたい。多目的広場の場所を分かっている方も少ないかもしれないし、周知というわけでないが、地域の意見を聞いていただいて、これを機会に、特定のスポーツだけでなく一般の住民の方がこの広場に行って自由にキャッチボールしたいということもあるかもしれないので、地域の意見の方のご意見を聞くことをお願いしたい。また、離れた地域の方の意見も聞いていただければと思う。

→（生涯学習スポーツ課）地域の住民の方の意見については、若松地区の町会からご意見を賜ろうと考えている。先ほど話のあった地域での盆踊りで使うというようなこともあるかもしれない。

・将来像として、子どもの自転車を含めた自由広場という意見があるが、確かに子どもたちが自転車で自由に遊べる場所はないと感じた。以前は新宿スポーツセンターのある戸山公園に、お金をいくらか払ってローラースケートで遊べる環境があった。いつまであったか覚えていないが、交通ルールを守りながら遊べるゴーカートもあった。子どもごころには印象が強い。ローラースケートはなかなかやれる環境がないので、どこかで子どもが遊べる環境があるといいと思う。

→新宿スポーツセンターの5階でローラースケートができる多目的コートがあるので、ぜひご利用いただければと思う。

・（生涯学習スポーツ課）様々な意見を頂戴した。委員の皆様の意見と、利用者団体や区の各課からの意見も踏まえ、なるべく多目的な広場というという方向で東京都と協議をしていきたいと考えている。ご意見にあったとおり、東京都の壁が高いところもあるかもしれないが、精一杯がんばりたいと思う。

（6）その他 意見交換

・ゴールボール女子日本代表の練習の見学会はまだ余裕があるのでぜひ参加をお願いしたい。女子の代表チームはリオデジャネイロパラリンピックに出場するが、なかなか練習会場の確保に苦労されているということなので、この機会に集中的に練習していただき、翌日の壮行試合・壮行会で盛り上げてリオデジャネイロにお送りしたいと思う。

・リオデジャネイロオリンピックのシンクロナイズドスイミングの日本代表として出場する三井梨紗子選手のチラシは新宿区町会連合会で作っていただいた。メダルを取れるかどうかの瀬戸際ということなので、地域でも一生懸命応援している。三井選手は中落合三丁目の町会員なので、まず町会のほうから落合第一地区町会連合会を動かして横断幕を作った。その後、新宿区町会連合会や新宿区商店街連合会にも応援の輪が広がった。ぜひテレビで応援していただきたいし、8月19日夜、落合第一地域センターでパブリックビューイングを実施する予定とのことだ。前回のロンドンオリンピックのときも実施して、そのときは地元の同級生や近所の方と一緒に応援した。あれから4年経って、更に成長した姿を見れると思う。

4 行政からの連絡について

第8回スポーツ環境会議は実施日程及び内容が未定のため、決定次第お知らせする。